様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１１３０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ０２７２４

研究課題名（和文）国語科教育のグローバル化に対する言語文化の評価観・評価方法に関する調査的研究

研究課題名（英文）An Investigative Study on the Evaluation View and Evaluation Methods of Language and Culture for Globalization of Japanese Language Education

研究代表者
児玉　忠（Kodama, Tadashi）

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号：５０３３２４９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本科研は、国語科教育において日本の言語文化を教材として取り上げるにあたり、どのような評価観・評価方法をとるべきかを追究し明らかにすることを目的とした。その成果としては、日本の言語文化としての「俳句」「詩」「方言」などに注目した。「俳句」では、学習者が創作した俳句のどういう点を評価すべきかが明らかにされた。さらに、「俳句」が特別支援学級における自己表現としての「俳句」を評価することの有効性が明らかにされた。また、「俳句」の古典としての「奥の細道」に内在するものの見方・考え方を教材とすることも提案された。「詩」では、詩に内在する「異化」の作用や現象を評価の観点とすることの有効性が明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の成果は、報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究」にまとめられた。学校教育において日本の言語文化を教材として取り上げるにあたって、学習指導でどのような評価観をもち、どのような評価方法をとるべきかは未開拓の問題であった。本報告書では、そうした課題について具体的な提案をしている点に学術的意義が認められる。一例を示すと、特別支援教育において言語文化としての「俳句」教材を取り上げた植山は、俳句の創作に自己認識や自己表現があることを見いだした。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research project was to investigate and clarify what kind of evaluation viewpoints and evaluation methods should be adopted when Japanese language culture is used as teaching materials in Japanese language education. As a result, we focused on haiku, poetry, dialects, and other aspects of Japanese language culture, and proposed a new evaluation perspective and evaluation method for their study and instruction.

研究分野：教科教育学（国語科教育）

キーワード：言語文化　評価観・評価方法

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式：C-19、F-19-1、Z-19（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、国語科教育において、伝統的な言語文化に関する授業実践が進められてきたが、分散的、拡散的な成果に留まり、肝心の学習者の意識・意欲は必ずしも高まっていない。この問題状況を解決し、一方で急速に進むグローバル化に対応するために、「我が国固有の伝統的な言語文化」に対する姿勢を積極的、創造的なものに改め、グローバル化に対応した新しい価値観、評価観を確立していくことが必要である。

母国語の言語文化の継承は、無前提、無条件な固有の文化論に陥ると、固定的な継承観しか生まれず、特殊な層の継承者しか存在しなくなる。母国語の言語文化の継承、言語文化の教育については、合理的な評価観・評価方法に基づく積極的な意義づけ、意識づけが必要となり、そのための科学的根拠をどのように確保すべきかが問われている。

２．研究の目的

月刊の学会誌を刊行する日本国語教育学会は、前回の学習指導要領改訂の伝統的な言語文化の領域の特設に伴い、2008(平成20)年から年一回程度、伝統的な言語文化の特集を組んでいる(2008年12月号、2009年12月号、2010年8月号、2012年2月号、2014年9月号、2018年1月号)。教材開発、指導論が中心であり、いわゆるコンテンツベースの考え方となっている。

このような考え方では「伝統的な言語文化」ありきから発想された学習指導の反復に留まり、発展性は望めない可能性が生じてくる。これを解消、解決するためには、学習者を受容者から一定レベルの創造者（創作者）に転換することで主体性を確保することが必要である。しかし創作・創造については、合理的な評価観・評価方法が確立していないと、一過性の実践に終わってしまう。本研究では、この評価観・評価方法を確立ようとするものである。

こうした問題意識のもと、そうした新しい評価観・評価方法をどのように確保・構築すべきかが、本研究の核心をなす学術的「問い」である。こうした「問い」に応えることを目的に、わが国の伝統的な言語文化を国語科の教材として新たに捉え直し、その学習指導における評価観と評価方法を具体的に検討し、提案することを目的とした。

３．研究の方法

まずは、わが国の言語文化を言語的な側面や文学的な側面に分けてとらえ、それぞれが国語科教育においてこれまでどのような指導目標のもとで授業実践されてきたか、その際の評価観や評価方法はどのようなものであったかを明らかにする。

ただ、本科研の期間はコロナ禍によって、予定していた調査などがほとんどできないという状況にあった。そのため、研究分担者それぞれが、コンテンツとしての言語文化教材を選択して、教材開発を行い、それを伝統的な言語文化を国語科の教材として新しく捉え直す視点や具体的な教材開発を行う。そしてその教材による授業実践においてどのような評価観や評価方法

をとるかについて提案することとした。

４．研究成果

研究の成果は、報告書「言語文化の学習指導に関する評価観評価方法　令和２～４年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書」（令和５年３月）としてまとめられた。

たとえば、河野や植山・大西、佐藤は、言語文化教材コンテンツとしての「俳句」に注目した。河野は小学生と大学生に対する調査を対照することを通して俳句の評価法について追究した。植山・大西は特別支援学校の学習者に対する俳句創作指導を行い、俳句創作が学習者の自己表出を支援することを明らかにした。佐藤は、古典といえる俳句（「おくの細道」）を教材コンテンツとし、俳句に内在する見方・考え方を観点に指導と評価を行う可能性について追究した。

また、児玉は「詩の創作」を言語文化教材コンテンツと捉え、この「詩の創作」を言語文化の創造性の面から評価する観点として「異化」と「創作のレトリック」に注目し、その具体的な評価方法を示した。小川は、詩歌（詩、短歌、俳句）をさまざまな文種のうちの一つと捉える言語文化教材観の立場から、文種に応じてその教材特性を捉え直す必要性について詳細に検討を加えた。

さらに、原田は、「方言」を言語文化教材コンテンツの一つと捉えた。共通語と方言の使い分けや方言の継承といったこれまでの方言教育観だけでなく、転勤族の家庭で育つ学習者や外国にルーツをもつ学習者などを包摂しつつコンピテンシーベースで指導を構想する可能性について追究した。鈴木は、国語科における「書写（文字を書くこと）」を言語文化教材コンテンツと捉え、その文化的な意味や意義を明らかにしつつ、国語科で培う言語能力との関係を追究した。

以上のように、報告書では、「俳句」「詩」「方言」「書写」それぞれをわが国の言語文化として捉え直し、国語科教材としての新たな評価観・評価方法が提案された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 河野智文	４．巻 なし
２．論文標題 俳句を評価する観点と語句	５．発行年 2023年
３．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	６．最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 植山俊宏	４．巻 なし
２．論文標題 大学・附属特別支援学校連携による俳句創作実践プロジェクトの参与型現職研修に関する研究	５．発行年 2023年
３．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	６．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤明宏	４．巻 なし
２．論文標題 地域の言語文化素材を『奥の細道』の見方・考え方を使って表現する学習	５．発行年 2023年
３．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	６．最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 児玉忠	４．巻 なし
２．論文標題 『異化』と『創作のレトリック』で評価する詩の創作指導	５．発行年 2023年
３．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	６．最初と最後の頁 40-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川雅子	4．巻 なし
2．論文標題 文章の種類に応じた評価の検討	5．発行年 2023年
3．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	6．最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 原田大樹	4．巻 なし
2．論文標題 国語科教育における方言学習の再検討	5．発行年 2023年
3．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	6．最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木愛理	4．巻 なし
2．論文標題 〈文字を書くこと〉から書写の学習指導を問い直す	5．発行年 2023年
3．雑誌名 研究成果報告書「言語文化の学習指導に関する評価観・評価方法の研究	6．最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	遠藤　仁 (Endo Hitoshi) (20160400)	宮城教育大学・教育学部・教授 (11302)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小川　雅子 (Ogawa Masako) (40194451)	山形大学・地域教育文化学部・名誉教授 (11501)	
研究分担者	植山　俊宏 (Ueyama Toshihiro) (50193850)	京都教育大学・教育学部・教授 (14302)	
研究分担者	原田　大樹 (Harada Daiki) (50756492)	福岡女学院大学・人間関係学部・准教授 (37118)	
研究分担者	中地　文 (Nakachi Aya) (70207819)	宮城教育大学・教育学部・教授 (11302)	
研究分担者	河野　智文 (Kawano Tomohumi) (70304144)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究分担者	位藤　紀美子 (Itou Kimiko) (80027713)	京都教育大学・　・名誉教授 (14302)	
研究分担者	千々岩　弘一 (Chijiiwa Kouichi) (90163724)	鹿児島国際大学・福祉社会学部・特任教授 (37701)	
研究分担者	佐藤　明宏 (Satou Akihiro) (90242750)	香川大学・教育学部・特命教授 (16201)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	鈴木　愛理 (Suzuki Eri) (90722215)	弘前大学・教育学部・准教授 (11101)	
研究分担者	佐野　幹 (Sano Miki) (90791616)	宮城教育大学・教育学部・准教授 (11302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関